

2月10日(月)

大いなる罪と愛

聖書朗読 ヨハネ 19:10~16

イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったなら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」
ヨハネ 19:11

ピラトは罪深き支配者でした。数多くの間違っただけを人々に行っていました。イエス様がピラトの前に立った時、ピラトはイエス様を裁く理由が見つけれず、死刑にする理由はないと思いました。しかし、ユダヤ人のリーダーたちは、主イエスを処罰したいと望んでおり、そのことにピラトも気付いていました。そこで、ピラトはイエスをむち打ちにし、いばらの冠を被せました。しかし、それでもなお、ユダヤ人はイエス様を十字架に架け、処刑したいと思っていました。

このすぐ後に、主はピラトに次のようにおっしゃいました。『上から与えられていなければ、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに引き渡した者に、もっと大きな罪があるのです』(ヨハネ 19:11)。

ピラトの許へ主を『引き渡した者』とは、大祭司カヤパのことです。カヤパには、ユダヤの宗教指導者として、非常に大きな権威が与えられていました。主は、ピラトに対し『わたしに対して何の権威もありません』と仰る一方、カヤパに対しては『もっと大きな罪がある』と仰り、カヤパの宗教指導者としての立場の重要性を示唆なさっています。このように、主イエスは、ご自身が非常に困難な状況に置かれても、宗教指導者としてのカヤパの権威を重視されました。そして、カヤパの思惑(主イエスを十字架刑に処すること)は罪深い思惑であったのですが、父なる神は、主の十字架の出来事を通して、人間の罪の贖いのご計画を成し遂げて下さったのです。神のなさる業は、何と奇しき業なのでしょう。

讃美歌 142

祈り お父様、私達を愛して下さい、一人子であるイエス様を私達の罪のために与えて下さり、ありがとうございます。イエス様が、私達のために犠牲になるという決断をして下さったことにも感謝致します。私達の理解を越えるほど大きなあなたの愛に感謝致します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

エディー・C・ルイス
テネシー州ジャーマンタウン

今日のカ

2020年2月10日~2月16日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月11日(火)

愛に生きる

聖書朗読 ヨハネ 21:16~19

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。
ヨハネ 15:12

イエス様はペテロに三度、主を愛しているかお尋ねになりました。三度目ともなると、ペテロはウンザリして答えました。イエス様は何故、三度も聞かれたのでしょうか？イエス様はペテロの心をご存知でした。事実、ペテロも『主よ、あなたはすべてをご存じです』と答えています。三回のペテロの回答ごとに、イエス様は似たような命令をペテロにお与えになりました。『わたしの子羊を飼いなさい』（15節）、『わたしの羊を牧しなさい』（16節）、『わたしの羊を飼いなさい』（17節）。

イエス様は、私達にもご自身を愛しているか尋ねておられ、『わたしの子羊を飼いなさい』と仰っているのではないのでしょうか。愛は私達の行動により示されるものです。私達クリスチャンは、霊的に、そして具体的に互いに助け合い、支え合うべきです。

日々の生活の中で、神様から、「私を愛しているか？」と問いかけられているような状況はありませんか？ そのような時は、私達の言葉や行いに愛が込められているか、振り返ってみましょう。神様に仕えるクリスチャン同士、互いに支え合っているのでしょうか？ 言葉だけでなく、行動を通して神様への愛を示しましょう。

讃美歌 352

祈り 神様、御名を賛美します。私達が互いに支え合いながら歩むことが出来ますよう、お導き下さい。私の言葉や行いが、あなたの愛を指し示すものとなりますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

エディー・フィッツジェラルド
テキサス州ラボック

2月12日(水)

互いに励まし合う

聖書朗読 ローマ 1:11~12

私あなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分けて、あなたがたを強くしたいからです。というよりも、あなたがたの間において、あなたがたと私との互いの信仰によって。ともに励ましを受けたいのです。

ローマ1:11~12

サラ・アンドリュースは、アメリカの諸教会からサポートを受け、日本で宣教活動を行いました。彼女は静岡県内で教会を立ち上げ、活動していました。彼女の奉仕と隣人愛は称賛され、感謝されていました。第二次世界大戦により、サラは戦争捕虜収容所へ入れられました。元々体が非常に弱かったため、収容所での生活すら困難となり、自宅軟禁となりました。彼女が教えていた生徒でクリスチャンとなった人のうち一人が、自宅軟禁のサラの様子を確認し、極秘で食べ物運び、サラを助けました。

賛美歌を歌うことは許されていなかったため、サラの自宅に皆で集まり、賛美歌の番号を告げ、それぞれ声を出さずに心の中で賛美歌を歌いました。戦争が終わると、サラは、自分を助けてくれた若い生徒たち、また同じように助けてくれたアメリカ軍の関係者達を励ました。

これは、信仰を同じくする人々がお互いに励まし合った良い例と言えるでしょう。サラの支援者たちは経済的な援助で彼女を励まし、サラは日本でクリスチャンになった生徒たちを聖句を用いて励ました。生徒たちは、彼女が物理的に必要な物を届けることによりサラを励ましたのです。このように互いに励まし、支え合うことにより、神様を愛する人々が力を合わせて教会を建てるのが出来ました。私達も信仰を分かち合いながら共に強くされ、互いに励まし合うことが出来るのではないのでしょうか。

讃美歌 403

祈り 愛する神様、サラの良いお手本をありがとうございます。互いに励まし合うことの大切さに気が付くことが出来ますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スーザン・K・ジボニー
カリフォルニア州マリブ

2月13日 (木)

謙虚でありなさい

聖書朗読 ローマ 12:3~8

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分けて下さった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

ローマ12:3

(かつて活躍した有名な説教者の) ドワイト・L・ムーディーは、次のように言いました。「神様は全ての人を霊的に満たして下さる。しかし、自分のことばかり考えて高慢になっている人は、神様が満たして下さろうとしてもそれを拒否してしまう」と。ともすると、私達も、自分を中心に考え、神様に自分自身を明け渡す姿勢が欠けてしまう時はありませんか？ 私はそのような経験があります。そして、自己中心的態度を取ってしまうことは、多くの人がしてしまいがちな、霊的な失敗だと思います。聖書は、そのような失敗について私達に注意を促しています(ローマ12:16)。

こんな話を耳にしたことがあります。とある若く有名な人が講演会のゲストとして、晚餐会のテーブルについていました。それは盛大な晚餐会でした。給仕の女性がバターを1人につきスプーン1さじずつ配りました。このゲストはもっとバターが欲しかったので、給仕に声を掛け「すいません、もう1さじバターを下さい」と伝えました。それに対して給仕の女性は「申し訳ありません、バターは1人1さじと決まっております」と答えました。自分の思い通りにならなかったことに苛立ちを覚えたゲストは「きっと私が誰だか知らないのですね？ 私が今夜の講演者だから、こんなに人が集まっているのですよ」と高慢な態度で言いました。給仕は「あらそうですか。私が誰だかご存知ないようですね」と答えました。「じゃあ誰なんだい？」と自惚れた講演者は尋ねました。「私はバターの責任者です」と答えました。講演者は自分が有名で、そのお陰で人が集まっているのだから、何でも自分の思い通りになると思っていたのです。そして給仕の女性を見下して、彼女は自分の言うことを聞くはずだと思ったのです。この出来事が滑稽なように、私達が高慢な態度を取るとは愚かなことなのです。神様の前で私達はみな等しく愛されているのです。

*真の謙虚さとは、自分自身を過小評価することではなく
自分中心の考え方をしないことです
CSルイス*

讃美歌 495

祈り 天のお父様、あなたこそが神様です。そのことに感謝します。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マーク・R・ガイ
オハイオ州ウエストキャロルトン

2月14日 (金)

神様と共にある人生

聖書朗読 II コリント 1:8~11

彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

ヘブル 11:19

パウロは伝道の際に、何度も苦難を経験しました。それには死を覚悟することも含まれました。深い信仰とイエス様のために耐える強い決意があったため、困難な伝道活動を成し遂げることが出来たのです。時には、パウロは危険を回避できる場合もありました。使徒9:25が一つの例です。『そこで、彼の弟子たちは夜の間に彼を連れ出し、かごに乗せて町の城壁伝いに降り降ろした』。このように、パウロは危険を回避できた時もありましたが、困難な状況に長い間置かれることもありました。

危険に直面することがあろうとも、パウロは、常に確固とした信仰を持ち続けました。パウロは『死者をよみがえらせてくださる神に頼る者』となりました(II コリント 1:9)。この点で、パウロはアブラハムを思い起こさせます。アブラハムは、『神には人を死者の中からよみがえらせることもできる』(ヘブル11:19) ことを知っていたので、息子のイサクを捧げる決意が出来たのです。

信仰を生活の基盤とする生活は、「サタンからの攻撃が全く無い生活」ではありません。また、「物質的・経済的に豊かな生活」であるとも限りません。しかし、一つははっきりしていることがあります。信仰を生活の基盤とする生活は、どんな状況に置かれても「神には人を死者の中からよみがえらせることもできる」という信仰ゆえに、終わることのない希望と確信が与えられる歩みなのです。

讃美歌 525

祈り 天のお父様、この地上のものは全て、一時的で、はかない存在です。しかし、あなたが与えて下さった永遠の約束は確かなものです。本当に大切なあなた、またイエス様に目を向けられるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・ウォルフ
カンザス州オラース

2月15日(土)

恵みに生きる

聖書朗読 ガラテヤ 2:15~21

というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。 ローマ 6:14

「律法主義」は、「神の測り知れない愛」や「恵み」を重んじる考え方の対極にある考え方です。律法主義に立つと、律法という高い壁(ハードル)を自力で超えることが必要とされますが、恵みに生きる立場は、神と人間との間に架けられた、恵みという架け橋を見出すことが出来ます。律法主義は、「律法の順守」を「神の愛」よりも大切に考えてしまいます。恵みに生きる立場は、私達を霊的にも成長させますが、律法主義は、(表面的な)実績や結果を残すことだけに目を奪われがちです。私の理解では、「神の恵み」とは、「神の愛の最も力強い現れ」ではないかと思います。それに対し律法主義には、人間のプライドが強く現れているように思います。恵みは、寛容さ、愛、そして励ましを人々に与えますが、律法主義は、自己満足を求めます。

誤解しないで下さい。確かに、神様は私達が神に従っていくことを望んでおられます。しかし律法主義は、神との関係を深めるものではなく、むしろ自己満足のための考え方なのです。ここで本日の聖書朗読箇所の中で、特に20-21節に目を向けましょう。『もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えて下さった、神の御子に対する信仰によるのです。私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。』

神様の恵みにより、生きられることに感謝します。御名を賛美します。

讃美歌 II編167

祈り 親愛なるお父様、あなたの愛こそが私の人生です。あなたの一人子であるイエス様こそが救い主です。あなたの恵みが私の救いです。イエス様を与えて下さったことに感謝します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

マーク・R・ガイ
オハイオ州ウエストキャロルトン

2月16日(日)

一番大切なこと

聖書朗読 ガラテヤ 5:7~18

わずかのパン種が、こねた粉の全体を発酵させるのです。 ガラテヤ 5:9

私は三年前に退職し、恵まれた時間を過ごしています。より神様を身近に感じますし、神様から与えられた時間、また神様との関係に、以前よりも感謝するようになりました。今まで気が付かなかった神様の私に対するご計画や、どれだけ神様が私を気にかけて下さっていたかにも目が向くようになりました。

人生において、仕事に支配されているように感じることはありませんか? 働くことは悪いことではありませんし、仕事があるのは恵みでもあります。しかし、あまりにもそちらへ目を向け過ぎて、神様がおざなりになっている時もあるのではないのでしょうか。仕事をきちんと成し遂げる自信はあっても、神様との関係はどうでしょうか。

人生で、仕事以外にも神様から目をそらすようなことは沢山あります。それがサタンの誘惑だからです。仕事、趣味、スポーツ、テレビ番組、もしくは地上的なものだけに心奪われてしまっていることはないのでしょうか。もしそうであるならば、それは神様が望まれる生き方ではなく、霊的に豊かな生き方とは言えません。

人生を今だけでなく、全体的に考えてみましょう。本当に大切なことは何でしょうか。「今」だけに目を留めると、「あまり大切にないこと」を「人生で一番大切なこと」のように錯覚してしまう場合があるからです。

讃美歌 488

祈り 神様、御心に従い生きていきますよう、どうぞお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジェス・ピーターソン
テキサス州ラボック